

# 課題の目標とメニュー

**目標：レポート作成に必要な資料を図書館で探せるようになる**

- **第1章 レポートとは**
- **第2章 レポート作成における資料の種類と選択**
- **第3章 図書館資料の探し方**



この課題の目標とメニューをご紹介します。  
目標は、レポート作成に必要な資料を図書館で探せるようになることです。

この目標を達成するために、  
第1章では、レポートとは何か、何が求められているのか、について学びます。  
第2章では、レポートを作成する際に使う資料の種類と、その選び方について学びます。  
第3章では、図書館資料の探し方について学びます。

なお、この課題では、レポートの書き方自体については詳しく触れません。  
レポートの書き方について詳しく知りたい場合は、『阪大生のためのアカデミック・ライティング入門』に、情報がまとめられているので、そちらを読んでみてください。

この動画では第1章の内容を学んでいきます。

# 第1章 レポートとは

それでは、第1章を始めます。

# レポートとは

	求められること	例
<b>説明型</b>	授業や課題図書の内容を理解したかを示す	授業のまとめレポート 本の要約レポート
<b>報告型</b>	実習での成果を報告する	見学レポート 看護・臨床・教育実習報告
<b>実証型</b>	与えられたテーマについて仮説を立て、実験や調査の結果をもとに実証する	「ボルダの振り子を用いて重力加速度gを正確に測定し、レポートにまとめよ。」
<b>論証型</b>	与えられたテーマについて問いを立て、根拠となる情報を用いて、問いに対する自分の答えを論理的に示す	「日本社会と高齢化について、4000字以内で自らの意見を述べよ。」

(参考：井下千以子(2019)『思考を鍛えるレポート・論文作成法』第3版, 慶應義塾大学出版会, p.40.)

レポートはいくつかの種類に分けることができます。  
この表のように、大きく4種類に分けられますが、今回は、一番下の「論証型レポート」を念頭に置いて話を進めます。

「論証型」のレポートで求められることは、「与えられたテーマについて問いを立て、根拠となる情報を用いて、問いに対する自分の答えを論理的に示す」ことです。

具体的な課題例としては、「日本社会と高齢化について、4000字以内で自らの意見を述べよ。」といったものがあります。

論証型レポートで求められる「根拠となる情報を用いる」とはどのようなことでしょうか。

実際のレポート例を見て、確認してみましょう。

## レポート課題 「日本社会と高齢化について、4000字以内で述べよ。」

### 悪い事例

「高齢社会における労働力の確保についてー外国人労働者受け入れの観点からー」  
○学部 A123456 阪大 太郎

近年日本では急速に少子高齢化が進み、生産年齢人口が減少し始めている。労働力の減少は日本経済に悪影響を及ぼすと考えられる。

裏付けとなる資料が示されていない！

では、今後日本はどのように労働力を補っていけばよいであろうか。本論では、外国人労働者を受け入れる必要があることを論じたい。

これは「日本社会と高齢化について、4000字以内で述べよ」という課題に対して提出されたレポートの冒頭部分です。

一見良さそうな書き始めですが、根拠となる情報が示されていないため、論証型レポートの要件を満たしていません。

具体的には、「少子高齢化が進み、生産年齢人口が減少し始めている」ことや「労働力の減少は日本経済に悪影響を及ぼす」ことの裏付けとなる資料が示されていません。

では、根拠となる情報を示している良い例を見てみましょう。

## レポート課題 「日本社会と高齢化について、4000字以内で述べよ。」

### 良い事例

「高齢社会における労働力の確保について－外国人労働者受け入れの観点から－」  
○学部 A123456 阪大 太郎

近年日本では急速に少子高齢化が進み、生産年齢人口は1996年以降減少の一途をたどっている(1)。労働力の減少は優秀な人材の確保を困難にし、日本経済に悪影響を及ぼす(2)。

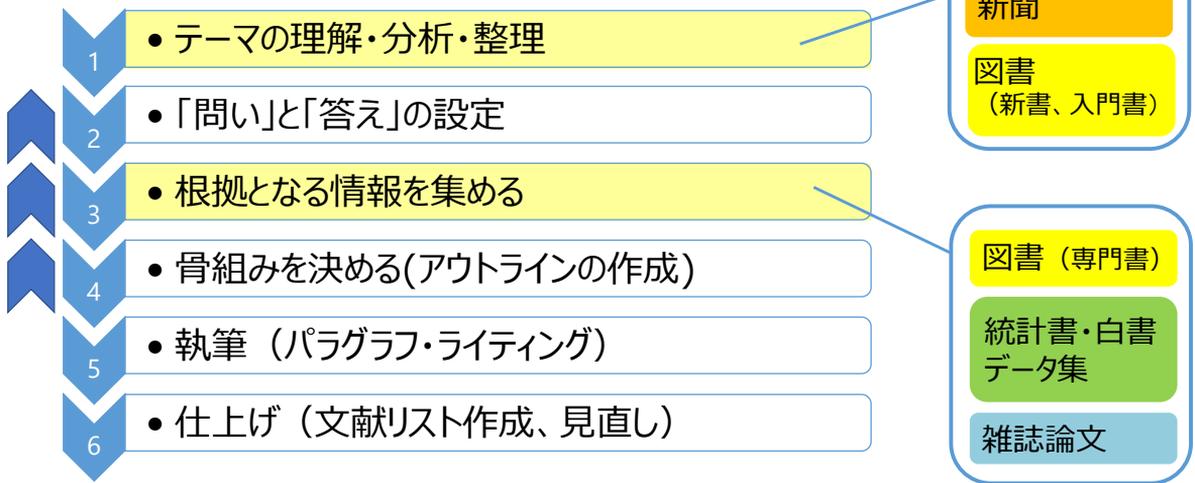
では、今後日本はどのように労働力を補っていけばよいであろうか。本論では、外国人労働者を受け入れる必要があることを論じたい。

- 
- (1) 内閣府 (2024) 「高齢化の状況」『高齢社会白書』令和6年版 p.2-6  
(2) 小崎敏男 (2006) 「人口減少と労働市場」大淵寛, 森岡仁編著『人口減少時代の日本経済』原書房

こちらの例では、資料から得られた具体的なデータや理由に言及しています。そして、用いた資料をページの末尾に注として示しています。このようにすると、論証型レポートの「根拠となる情報を用いる」という要件を満たすことができます。

これはあくまで根拠の示し方の一例で、他にも様々な示し方があります。詳しくは、『阪大生のためのアカデミック・ライティング入門』を参照してください。

# レポート作成の流れ



(参考：堀一成・坂尻彰宏 『阪大生のためのアカデミック・ライティング入門』  
第4版, 大阪大学全学教育推進機構, p. 7.)

第1章の最後に、レポート作成の流れを紹介します。

この図は、論証型レポートを作成する際の流れを示したものです。

レポートを作成するときには、いきなり書き始めるのではなく、ステップ1からステップ6までの流れに沿って作成すると上手くいきます。

実際にはこの流れを行ったり来たりすることがありますが、基本的に、この図で示した流れに沿って作成するとよいでしょう。

この中で、ステップ1とステップ3では情報収集が重要です。

具体的には、ステップ1の「テーマの理解・分析・整理」では、「参考図書」「新聞」「新書・入門書」といった資料が役に立ちます。

ステップ3の「根拠となる情報を集める」では、「専門書」「統計書・白書・データ集」「雑誌論文」などが必要になってきます。

第2章では、これらの資料の特徴について詳しく学んでいきます。

第1章の動画はこれで終了です  
第2章の動画に進んでください

第1章 おわり (ナレーション VOICEVOX:波音リツ)

第1章の動画はこれで終了です。  
第2章の動画に進んでください。